

好きな言葉の入ったお墓

第8回では歌手の河島英五さんのお墓が入賞した。家族の了解を得て、石材店が応募。すでにファンの方々には旧知のお墓である。墓石表面に「心から心へ」の河島さん直筆の文字が刻まれている。さらに、裏面を見ると「ふりかえると いくつもの幸せ ふりかえると いくつもの哀しみ いそがしさを い



いわけにして あなたと ゆっくり話すこともなかったが あなたが いてくれたから がんばって これたんだ あなたを支えにして あなたに ほめられたくて」の直筆の文章が刻まれている。以下は家族に代わって応募した石材店のコメント。<昨年4月に亡くなられた歌手の河島英五さんのお墓です。十輪院のご住職のご好意で、寺内墓地に建立させていただきました。シンプルな洋風のお墓をとのご希望をお聞きしてデザインしました。ファンの方のお参りもありますから、たくさんの花が供えられるようにと、供物台を大きく取りました。石は、寺院墓地にふさわしい上品な大島石を使っております。表面と裏面の絵と文字は河島英五さんの直筆です。>お墓奈良県奈良市の十輪院にある。

第18回で入賞した奈良県葛城市の伊藤 孝見さん（当時76歳）のお墓には、「星、地に花、人に愛」の文字が刻んである。この墓石を制作するきっかけは、先祖から受継いだ、京都の西方面に存在していた古い墓の改葬です。昨年亡くなった妻道子は、参拝する時に気持ちよく参拝できないと言っていました。京都の古い慣習と、お墓のある置山の中の環境は非常に悪かったのです。



そこで亡くなった伊藤道子の法名と先祖の法名を記彫し、墓標には彼女の好きだった「天に星、地に花、人に愛」と表記しました。建立者、及び兄弟は年少の時から馴染んできた言葉を釋妙道（伊藤道子の法名）に教えられました、その他家族の希望で墓標に花とヒマラヤの山の風景を彫刻してもらいました。この墓

標の表面に描かれているヒマラヤの山は、まだ元気だった一昨年、歩いて観光に行ったアンナプルナ山です、ネパール人は先祖の眠っている墓であるといって、毎日合掌し参拝していました。この墓は、祖先の人が祀られて、後の世代の人たちが、生きている喜びを、感謝しながら、祈りをこめて参拝に、快く来てくれるような、誌的文章を彫刻しました。

第18回で大賞を獲得した東京都港区の馬場 雄二さん（当時74歳）は、東北芸術工科大学名誉教授。50年余り漢字の研究（文字の視覚化）を続け、その総決算として自分の墓石に創作漢字を刻むことにした。「楽あれば苦あり」、「苦あれば楽あり」とは古くから言い伝えられたことわざであるが、この「苦」と「楽」という相反する意味の文字を一文字に合体させて刻んだ。独特の創作漢字が中央に、両脇に「楽あれば苦あり」、「苦あれば楽あり」と彫り、上部には「だから人生は面白い」と刻んである東北大震災支援も意識し、宮城県の「伊達冠石」（仙台市）を探して採石場まで行って購入した。自分の好きな座右の銘を自分の感性で表現し、後世に残せる幸せを実感しています、と語る。自分の告別式の写真は、お墓と並んで写した写真を使ってもらおうというほれ込みよう。



第19回で大賞を受賞した神奈川県相模原市の日高 紘一さん（当時72歳）も墓碑に独特の言葉を刻んでいる。墓碑には「唯一無二」と「あなたのかわり、世界中探したってどこにもいない」の彫刻。周囲には縁飾りのように花の彫刻。お墓の前の香炉は鹿児島島の桜島型で、線香をたくと頂上付近から噴煙のように煙が立ち上る。故郷のお墓を住まいの近くに移転建立した。



日高さんは、故郷鹿児島に数十年前にお墓を建立しているが、遠くてお墓参りに行けないと住まいの近くに新たに墓地を求め、自分たちの終の棲家として想いを込めたお墓を建てた。桜島型香炉から噴煙が上がるという、よつとした遊び心を加えた日高さんは、「世界中探したって絶対どこにも無い!!お墓」と胸を張る。